

# 2014年度 センター試験 本試験 日本史 B

## 第1問 古代から現代の記録史料

出題範囲	古代～現代の政治・社会史
難易度	★★★☆☆
所要時間	8分
傾向と対策	2014年度の第1問は、古文書・公文書といった記録史料を軸に、各時代の基本事項を問う問題だった。史料を読み取るタイプの問題がセンター試験では頻出しており、やさしい問題であることが多いので、受験生にとっては落とすと命取りになりかねない。普段から教科書や参考書あるいは新聞・雑誌の史料に目を通して、出題された際には落ち着いて問題を読み取って必ず正解できるようにしておきたい。

### A

問1 1 正解は②

難易度 ★★★☆☆

#### 解説

- a 正 奈良時代、官吏養成機関として、中央には貴族や東西史部（朝廷に文筆で仕えていた人々）の子弟のために大学が、地方には郡司らの子弟のための国学が置かれた。
- b 誤 奈良時代の太政官制の下に置かれていたのは、中務省などの八省である。内務省は1873年に明治政府が設置した、地方行政や治安などの内政に関する省庁で、第2次世界大戦以前は強い影響力を持っていた。
- c 誤 奈良時代における朝廷の最大勢力範囲は、東北では日本海側は秋田城（現秋田県）、太平洋側は伊治城（現宮城県）、南九州は大隅国（現鹿児島県）までであった。
- d 正 戸籍は律令制下で6年ごとに作成され、住民の基本台帳として中央政府に送られていた。また計会帳についても問題文中にある通り、中央に報告されていた。

以上より、aとdの組み合わせになる②が正解である。bとdに関連して、律令官制について次ページの「参考 律令官制の制度一覧」にまとめたので参照されたい。

## ◆参考 律令官制の制度一覧

	律令官制
成立時期	8世紀初頭（ <sup>たいほうりつりょう</sup> 大宝律令の完成）。
律とは？	現在の刑法に相当する罪と刑罰の規定。
令とは？	現在の民法・行政法・訴訟法などに相当する広範な基本法。
格とは？	律令を補足するための追加・修正法令。
式とは？	律・令・格を施行する際の <sup>さいそく</sup> 細則規定。
中央官制	二官八省一台五衛府と呼ばれた。
二官	<sup>じんぎかん</sup> 神祇官（ <sup>さいし</sup> 神祇祭祀）と <sup>だいじょうかん</sup> 太政官（行政事務）。
太政官	国政運営は <sup>だいじょうだいじん</sup> 太政大臣（常置しなくてよい）・左大臣・右大臣・ <sup>だいなごん</sup> 大納言からなる <sup>く</sup> 公卿（のちに <sup>ぎょう</sup> 中納言・ <sup>さんぎ</sup> 参議も含む）の合議によって進められる。 公卿の下には、少納言・左弁官・右弁官があった。
八省	左弁官のもとに <sup>なかつかさ</sup> 中務省（ <sup>しやうしょ</sup> 詔書の作成）・ <sup>しきぶ</sup> 式部省（ <sup>じぶ</sup> 文官の人事）・ <sup>じぶ</sup> 治部省（ <sup>じぶ</sup> 仏事・ <sup>かい</sup> 外交事務）・ <sup>みんぶ</sup> 民部省（ <sup>みんぶ</sup> 民政・ <sup>そく</sup> 租税）が属し、右弁官のもとに <sup>ひやうぶ</sup> 兵部省（ <sup>ひやうぶ</sup> 軍事・ <sup>し</sup> 武官の人事）・ <sup>ぎやうぶ</sup> 刑部省（ <sup>ぎやうぶ</sup> 裁判・ <sup>けいぶ</sup> 刑罰）・ <sup>おおくら</sup> 大蔵省（ <sup>おおくら</sup> 財政・ <sup>か</sup> 貨幣）・ <sup>くわい</sup> 宮内省（ <sup>くわい</sup> 宮中の事務）が属した。
一台	<sup>だんじょうだい</sup> 弾正台と呼ばれる組織が官吏の監察・風俗取締りを担当。
五衛府	<sup>えもんふ</sup> 衛門府・ <sup>えじふ</sup> 左右衛士府・ <sup>ひやうえふ</sup> 左右兵衛府が <sup>きゆうじやう</sup> 宮城などの警備を担当。
地方官制	<sup>やまと</sup> 大和国・ <sup>やましろ</sup> 山背国・ <sup>かわち</sup> 河内国・ <sup>せつ</sup> 摂津国（のちに <sup>いずみ</sup> 和泉国）を <sup>い</sup> 畿内とし、 <sup>とう</sup> 東海道・ <sup>とう</sup> 東山道・ <sup>ほく</sup> 北陸道・ <sup>さん</sup> 山陰道・ <sup>さん</sup> 山陽道・ <sup>なん</sup> 南海道・ <sup>せい</sup> 西海道を七道とした。
行政区画	国・郡・里（のちに郷）に分け、それぞれ <sup>くに</sup> 国司・ <sup>ぐん</sup> 郡司・ <sup>り</sup> 里長（郷長）を置いて統治させた。国司は <sup>ちゆう</sup> 中央貴族から <sup>にん</sup> 任期制で選ばれ、郡司は <sup>ちゆう</sup> 国造などの <sup>ちゆう</sup> 地方豪族から <sup>しん</sup> 終身制（ <sup>せ</sup> 世襲認める）で選ばれた。
要地	行政組織として、京に <sup>きやうしき</sup> 左右京職を、 <sup>せつしき</sup> 摂津に <sup>せつしき</sup> 摂津職を、 <sup>だざいふ</sup> 西海道に <sup>だざいふ</sup> 大宰府を置いた。

問2 2 正解は③

難易度 ★★★☆☆

## 解説

- ① 誤 足利尊氏（任 1338-58）の執事（後の管領，將軍の補佐役），<sup>こうのもろなお</sup>高師直は侍所の指揮権を握っていた人物である。尊氏とその弟・<sup>ただよし</sup>直義（1306-52）の関係について，幕府成立当初は兄弟で分担して政治にあっていた。しかし、互いの政治方針の違いから、幕府成立に武力で貢献した<sup>あくとう</sup>元悪党などの革新的新興勢力（尊氏・高師直派）と鎌倉幕府以来の有力御家人などの保守的既成勢力（直義派）の間に対立が生まれた。師直と直義の対立が激化し、<sup>かんのう</sup>観応の<sup>じやうらん</sup>擾乱が起こると，尊氏と直義の関係も悪化し，1352年に直義は病没した。よっ

て、直義は師直とは連携しておらず、尊氏から実権を奪い取ってもいない。

- ② 誤 直義は鎌倉を拠点にしたことはあるが、**鎌倉公方**になったことはない。鎌倉公方とは**鎌倉府**の長官のことで、**足利尊氏**（1305-58）の子**基氏**（1340-67）の子孫が代々務めた。また、その補佐役は**関東管領**といい、この役職は**上杉氏**が**世襲**した。
- ③ 正 幕府成立当初、軍事動員・恩賞給与などの主従性による支配を将軍の尊氏が、裁判などの統治に関する任務を直義が担っていた。
- ④ 誤 **管領**は、**観応の擾乱**が終息した後の2代将軍**義詮**（任 1358-67）の時代から3代**義満**（任 1368-94）の時代にかけて成立した、将軍補佐を担う最高職である。この職は**斯波・細川・畠山**の三氏（**三管領**）から選出された。

以上より、正解は③である。

問3 3 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

解説

- I この記述は、**江戸時代**の村の特徴である。**本百姓**とは、検地帳に田畑・屋敷の所有者であることが登録された**高持百姓**の事で、年貢・諸役を負担し村政に参加する村正規の構成員であった。年貢の納入を村の責任とする制度の事を**村請制**と呼び、幕府や諸大名などはこのように村の自治組織に依存することで、村民を把握し税収を維持した。
- II この記述は、**鎌倉時代**の土地制度に関するものである。元々、**地頭**は荘園領主や知行国主の下で荘園・公領の現地支配者として置かれていたが、支配権拡大を狙う地頭は年貢未納などの荘園侵略を繰り返した。そこで、荘園領主と地頭との間では、地頭に現地管理の一切を任せる代わりに一定額の年貢納入を請け負わせるという**地頭請所**の契約が結ばれることがあった。
- III **半済令**は、**室町時代**に発布された法令である。この法令や**守護請**の下で、**守護**が在地武士と封建的主従関係を結び**家人化**したことで、彼らは**守護大名**へと成長していった。

以上より、古い年代順から II（鎌倉時代）→ III（室町時代）→ I（江戸時代）となる組み合わせの④が正解である。

B

問4 4 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

- X 正 1668年、岡山藩主**池田光政**（1609-82）は**閑谷学校**を設立した。庶民も含めて教育したこの学校は**郷校**の先駆けとなった。
- Y 誤 **懐徳堂**は、18世紀初めに**町人**の出資によって**大坂**に設立された**郷校**である。18世紀終わり頃には**中井**

ちくざん 竹山 (1730-1804) が学頭を務め、とみながなかもと 富永仲基 (1715-46) ややまがたぼんとう 山片蟠桃 (1748-1821) らの学者が生まれた。  
以上より X - 正, Y - 誤の組み合わせになる②が正解である。

問 5 5 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

解説

- ① 正 ひめゆり隊は女子学徒隊の一つであり、1945 年 3 月から始まる沖縄戦で終結まで天然洞窟の中で負傷兵の看護にあたった。しかし、この洞窟も攻撃対象となり、多くの生徒が犠牲となった。
- ② 正 太平洋戦争後期になると、日本は深刻な労働力不足に陥り、それを補うために政府は 1943 年に 14 歳以上の未婚女性による女子挺身隊を動員した。
- ③ 誤 大政翼賛会が結成されたのは、1940 年で第 2 次近衛文相内閣 (1940-41) の時である。鈴木貫太郎内閣 (1945) は小磯国昭内閣 (1944-45) のあとを受けて 1945 年 4 月に成立した内閣で、8 月 14 日に無条件降伏を決定した。
- ④ 正 サイパン島は 1944 年 7 月に陥落した。そして、これまで距離的に不可能であった日本全土の空襲が可能になったことで、1944 年後半以降本土空襲が激化することとなる。
- 以上より、正解は③である。

問 6 6 正解は②

難易度 ★★★☆☆

解説

- ① 誤 朝鮮戦争が勃発したのは 1950 年であり、グラフを見ると、この選択肢が正しくないことは明らかである。また、この時期以降、朝鮮特需の影響や高度成長などにより、第一次産業の構成比が減少し第二次産業・第三次産業の構成比が増加していることがわかる。
- ② 正 大阪で日本万国博覧会が開催されたのは 1970 年のことで、グラフからこの選択肢は正しいことがわかる。
- ③ 誤 三池争議が起きたのは 1959-60 年の事で、グラフからこの選択肢は正しくないことがわかる。三池争議は三池鉱山が経営再建のために炭鉱労働者を指名解雇したことによって始まる。経済界が三池鉱山側を、日本労働組合総評議会 (総評) が労働組合側を全面的に支持したため、「総資本対総労働」と呼ばれた。最後は組合側の敗北で終わった。
- ④ 誤 大日本産業報国会は、1940 年に産業報国会の全国組織として結成された。産業報国会は各工場・職場で日中戦争遂行に協力するために結成された組織である。グラフの 1940 年の部分からこの選択肢は明らかに正しくないことがわかる。
- 以上より、正解は②である。

(制作：帆玉光輝，瀧拓也)

# 2014年度 センター試験 本試験 日本史 B

## 第2問 原始・古代の外交・交通

出題範囲	原始・古代の政治・社会史
難易度	★★★☆☆
所要時間	8分
傾向と対策	2014年度の第2問は、古代の日本と他の東アジアの国々との関係、および国内の社会史からの出題となった。古代外交史は近年研究が盛んとなっており、国際化の影響もあって出題されやすい範囲である。中国や朝鮮の歴史が、史料とともに出題されることが多いので、頻出史料の書物名・内容・時期を整理しておきたい。さらに、中国史や朝鮮半島史に関する簡単な知識も頭に入れておいたほうがよいだろう。

### A

問1 7 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

#### 解説

X b さんないまるやま三内丸山遺跡は、青森県青森市（b）にある縄文時代中期の遺跡である。

Y c おもりかいづか大森貝塚は、東京都品川区（c）で発掘された縄文時代後期～晩期の遺跡である。

以上より、X - b、Y - cの組み合わせになる③が正解である。

問2 8 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

#### 解説

① 誤 史料1～2行目に「倭国乱れ、相攻伐すること歴年、乃ち共に一女子を立てて王と為す。名を卑弥呼と曰う」とあり、倭国で戦乱が起こっていたなかで女王ひみこ卑弥呼が立てられたことがわかる。

② 正 史料3行目に「夫婿無し。男弟有りて、国を佐け治む。」とあり、卑弥呼には夫がおらず、弟の補佐を受けて政治を行っていたことがわかる。

③ 誤 史料4～5行目に「倭の女王、大夫難升米等を遣わし、郡に詣らしめ、天子に詣りて朝献せんことを求む。」とあり、卑弥呼はたいふ大夫であるなしめ難升米らをたいほうぐん帯方郡に派遣し、ぎ魏の皇帝との会見を求めたことがわかる。

④ 誤 史料6行目に「今、汝を以て親魏倭王と為し、きんいんしじゆ金印紫綬を仮す」とあり、卑弥呼は「しんぎわおう親魏倭王」という称号を与えられたことがわかる。

以上より、正解は②である。

問3 9 正解は④

難易度 ★★★★★☆

## 解説

- I 643年、<sup>そがのいるか</sup>蘇我入鹿（?-645）らは対立していた<sup>うまやとおう</sup>厩戸王（<sup>しょうとくたいし</sup>聖徳太子）（574-622）の長子である<sup>やましるのおおえのおう</sup>山背大兄王（?-643）を一族もろとも自殺に追い込んだ。
- II 『日本書紀』によると、540年に<sup>おおとものかなむら</sup>大伴金村は、512年に百済へ任那4県を割譲したことを<sup>もののべのおこし</sup>物部尾輿らに咎められ（この際、金村は百済側から<sup>わいろ</sup>賄賂を受け取ったとされる）失脚した。
- III 仏教の需要をめぐる政治対立において、<sup>すうぶつは</sup>崇仏派であった<sup>そがのうまこ</sup>蘇我馬子（?-626）は、<sup>はいぶつは</sup>排仏派であった<sup>もりや</sup>物部守屋（?-587）と武力衝突し、587年に攻め滅ぼした。

以上より、古い年代順からII（540年）→III（587年）→I（643年）になる組み合わせの④が正解である。

## B

問4 10 正解は④

難易度 ★★★★★☆

## 解説

- ア <sup>まんようしゅう</sup>万葉集が入る。『万葉集』は、約4500首の歌を収めた現存最古の歌集で、率直な心情を表した歌が多く収録されている。代表的な歌人に<sup>ぬかたのおおきみ</sup>額田王（第1期・7世紀中頃）、<sup>かきのものひとまる</sup>柿本人麻呂（第2期・7世紀後半～8世紀初め）、<sup>やまのうえのおくら</sup>山上憶良、<sup>やまべのあかひと</sup>山部赤人、<sup>おおとものたびと</sup>大伴旅人（665-731、第3期・8世紀前半）、<sup>やかもち</sup>大伴家持（718?-785、第4期・8世紀中ごろ）などがいる。また、東国の民衆が詠んだ<sup>あずまうた</sup>東歌や<sup>さきもりうた</sup>防人歌なども収められている。『懐風藻』は、現存最古の漢詩集で、<sup>おおとものみこ</sup>大友皇子（648-672）、<sup>おおつのみこ</sup>大津皇子（663-686）、<sup>ながやおう</sup>長屋王らの歌が収められている。
- イ <sup>すいこ</sup>出挙が入る。出挙とは、<sup>りつりょう</sup>律令制下で広く行われた、春に稲を貸し付け秋に利息付きで回収する<sup>そぜい</sup>租税制度。私の別があった<sup>くすいこ</sup>（公出挙・<sup>しすいこ</sup>私出挙）<sup>にいなめのまつり</sup>新嘗祭とは収穫を感謝する祭で、現在の勤労感謝の日（11月23日）前後に行われた。また、春には<sup>としごいのまつり</sup>祈年祭という、その年の豊作を祈願する祭も行われていた。

以上より、正解は④である。

問5 11 正解は①

難易度 ★★★★★☆

## 解説

- X 正 律令制のもとでは全国が<sup>きない</sup>畿内と<sup>しちどう</sup>七道に分けられた。七道とは、<sup>とうさん</sup>東山（東北・関東中部の内陸部）・<sup>ほくりく</sup>北陸・<sup>とうかい</sup>東海・<sup>さんいん</sup>山陰・<sup>さんよう</sup>山陽・<sup>なんかい</sup>南海（四国・和歌山）・<sup>せいかい</sup>西海（九州）の七つの行政区画であるとともにそれぞれの区画を貫く<sup>かんせん</sup>幹線道路のことも指した。
- Y 正 中央政府と国府を結ぶ<sup>えきか(うまや)</sup>駅路には30里（約16km）ごとに<sup>えきば(はゆま)</sup>駅家が置かれた。駅屋には<sup>えきば(はゆま)</sup>駅馬が一定数いたが、<sup>えきれい</sup>駅鈴を持つ公用の役人のみが利用できた。

以上よりX - 正、Y - 正の組み合わせになる①が正解である。

問 6 12 正解は②

難易度 ★★★☆☆

**解説**

- a 正 国司は中央から中・下級貴族などが任命され、**国府**（**国衙**）を拠点に地方行政にあたった。
- b 誤 国司の命令によって、年間 60 日（のち 30 日に減免）を限度として、地方で土木工事や雑用に奉仕する**労役**は**雑徭**である。一方、**庸**とは、都での労働の代わりに納められた布のことをいう。
- c 誤 在京したまま任国に赴かない**国司**は**遙任国司**（単に**遙任**ともいう）と呼ばれた。**在庁官人**とは、国司ないしはその代理である**目代**の指揮下で、**国衙の実務処理を行う現地の有力者**のことである。
- d 正 遙任国司は、代理として**目代**を任国に派遣し、国政を担わせた。
- 以上より、a と d の組み合わせになる②が正解である。

## ◆参考 律令制における公民の税負担

区分	内容※正丁（21～60歳の男性の場合）
そ 租	田1段につき <b>稲2束2把</b> （収穫の約3%にあたる）。田地に課された。
ち ょう 調	絹・塩・アワビなど各地の <b>特産物</b> を一定量納入（※運脚の必要あり）。人頭税。
よ う 庸	京での <b>労役10日</b> に代わり <b>布2丈6尺</b> （約8m，※運脚の必要あり）を納入。人頭税。
雑 徭	地方での <b>年間60日以内の労役</b> 。

※運脚…自己負担で税を都へ運ぶこと

(制作：帆玉光輝，梶山真嗣)

# 2014年度 センター試験 本試験 日本史 B

## 第3問 中世の概観

出題範囲	中世の政治・経済・文化史
難易度	★★★☆☆
所要時間	8分
傾向と対策	2014年度の第3問は、中世史をテーマに政治・経済・社会・文化など幅広い分野からバランスよく出題された。どの問題も基本的事項を問うものばかりなので着実に正解したい。センター試験は、教科書全体から出題するように作られているため、教科書を抜け・漏れのないよう丁寧に読んでおく必要があるだろう。問6で出題された室町時代の一揆は、頻出問題なので、その一揆に関する史料とともにきちんと学習しておくべき項目である。

### A

問1 **13** 正解は④

難易度 ★★★★★☆

#### 解説

- ① 誤 1156年、保元の乱で争ったのは崇徳上皇(兄)(位1123-41)と後白河天皇(弟)(位1155-58)である。白河上皇(院政1086-1129)は、崇徳・後白河の曾祖父にあたる。この戦いに敗れた崇徳上皇は讃岐に配流された。
- ② 誤 この文には誤りが複数含まれる。
- 1: 源平の争乱の時期に院政を再開した上皇は、後鳥羽上皇(院政1198-1221)ではなく後白河上皇(院政1158-79,1181-92)であること。
  - 2: 後白河上皇が院政を再開したのは1185年に「源平の争乱が終結したのち」ではなく1181年に平清盛が死去したあとであること。後白河上皇は1179年から清盛が死没するまで、清盛によって幽閉されていた。
  - 3: 後鳥羽上皇・後白河上皇いずれも、鎌倉幕府との協力関係を重視したとはいえないこと。後鳥羽上皇は、1221年に鎌倉幕府打倒を狙って承久の乱を起こし、隠岐に配流されている。
- ③ 誤 源平の争乱を描いた軍記物語は『平家物語』である。『太平記』は、南北朝期の軍記物語で後醍醐天皇(位1318-1339)の倒幕計画から室町幕府2代将軍足利義詮(任1358-67)の死までが描かれている。
- ④ 正 1183年7月に平氏は都落ちし、源義仲(1154-84)が入京した。その直後に頼朝の要請を受けた後白河法皇は、「寿永二年十月宣旨」を出して頼朝の東海・東山道の支配権を認めた。
- 以上より、正解は④である。



## 問2 14 正解は③

難易度 ★★★★★

## 解説

- a 誤 **西行** (1118-90) は、平安末期の**歌人**である。元**北面の武士**であったが、出家した後は各地を**遍歴**し優れた歌を残した。代表的な歌集には『**山家集**』がある。
- b 正 **重源** (1121-1206) は、寄付を集める**勸進上人** (大**勸進職**) となり、平**重衡**の南都焼打ちによって**焼失した東大寺の再建**に**貢献**した。
- c 正 **陳和卿**は宋の工人で、重源の要請により**東大寺大仏の鑄造**、**大仏殿再建事業**に**登用**された。
- d 誤 **定朝**は**藤原道長** (966-1027)、**藤原頼通** (992-1074) の時代に活躍した**仏師**で、**寄木造**の手法を完成させた。**平等院鳳凰堂阿弥陀如来像**が定朝作と確認された唯一の作品である。

以上より、bとcの組み合わせになる③が正解である。

## 問3 15 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

## 解説

- I **平安時代末期**、平**清盛**は現在の兵庫県神戸港付近にあったとされる**大輪田泊**を整備して**日宋貿易**に力を入れた。この際輸入された**宋銭**は、中世を通じて日本の重要な精銭 (価値を認められた良質な貨幣) の一つであった。また、**宋**は960年に成立し、1279年に完全に滅びたことも判断材料になる。日本と正式な国交はなかったが貿易は盛んであった。
- II **1325年**、**建長寺**などの造営料獲得のために、**幕府**は**建長寺船**を**元**へ派遣した。建長寺は5代執権**北条時頼** (1227-63) によって創建され、**蘭溪道隆** (1213-78) が開山した寺である。後に鎌倉五山第一位となる。また、**元**は1271年に**フビライ・ハン** (1215-94) が建国したモンゴル王朝で、1368年まで中国本土を支配し続けた。
- III **室町時代**は幕府が貨幣を鑄造しなかったため、**永楽通宝**などの**明銭**が流通していた。しかし、貨幣の需要増大により、質の悪い**私鑄銭**が作られたため、商取引において**私鑄銭**を嫌い、**質の良い精銭**を好む**撰銭**がたびたび行われた。これは円滑な流通を阻害するので、幕府や大名は**撰銭令**を発し、悪銭と精銭の混入比率を定めたり、一定の悪銭の流通を禁止し、それ以外の貨幣の流通を強制したりといった対策を取った。補足として、**明**は1368年元に代わって**朱元璋** (1328-98) が建てた国家であり1644年まで続いた。

以上により、古い年代順から I (平安末期) → II (鎌倉時代末期) → III (室町時代) になる組み合わせの①が正解である。

## B

問 4 16 正解は④

難易度 ★★★☆☆

## 解説

ア 御文<sup>おふみ</sup>が入る。本願寺<sup>ほんがんじ</sup>の蓮如<sup>れんにょ</sup>（1415-99）は布教のために、易しい言葉で浄土真宗の教義が書かれた御文と呼ばれる手紙を用いた。題目<sup>だいもく</sup>とは、日蓮宗<sup>にちれんしゅう</sup>（法華宗<sup>ほっけしゅう</sup>）で唱える「南無妙法蓮華經<sup>なむみょうほうれんげきょう</sup>」の七字のことを指す。

イ 大坂城<sup>とよとみひでよし</sup>が入る。豊臣秀吉<sup>とよとみひでよし</sup>（1537-98）は 1583 年、石山本願寺<sup>いしやまほんがんじ</sup>の跡地に大坂城築城を開始した。一方、安土城<sup>あづちじょう</sup>は織田信長<sup>おだのぶなが</sup>（1534-82）が建立した平山城<sup>ひらやまじろ</sup>で、琵琶湖<sup>びわこ</sup>のほとりに建てられた。

以上より、正解は④である。

問 5 17 正解は③

難易度 ★★★☆☆

## 解説

① 正 義堂周信<sup>ぎどうしゅうしん</sup>（1325-88）と絶海中津<sup>ぜっかいちゅうしん</sup>（1336-1405）は、いずれも北山文化期に活躍した禅僧<sup>ぜんそう</sup>で、五山文学<sup>ござんぶんがく</sup>の双壁と称された。

② 正 出版された五山の漢詩文は五山版<sup>ござんばん</sup>と呼ばれ、中国文化の普及に寄与した。

③ 誤 道元<sup>どうげん</sup>（1200-53）は、鎌倉時代の禅僧で曹洞宗<sup>そうとうしゅう</sup>の開祖であり、福井県に永平寺<sup>えいへいじ</sup>を開創した。京都・鎌倉五山は臨濟宗<sup>りんざいしゅう</sup>の寺院である。

④ 正 五山の禅僧には中国からの渡来僧や留学僧が多かったため、足利義満<sup>あしかがよしまつ</sup>（任 1368-94）の頃には五山の禅僧が幕府の政治・外交顧問として重用された。彼らは外交文書作成に携さわったほか、外交使節として明や朝鮮に渡ることがあった。

以上より、正解は③である。

問 6 18 正解は②

難易度 ★★★☆☆

## 解説

X 正 「カンヘ四カンカウ」には「神戸四箇郷」という字があてられる。これは、大和国柳生郷<sup>やまとのくにやぎゅうごう</sup>にある惣村の連合組織のことを指し、この組織が正長の土一揆をおこす基盤となった。

Y 誤 「ヲキメ」とは負債のことを指すが、「ヲキメアルヘカラス」とは負債を帳消しにするという意味である。

以上より、正解は②である。

## ◆参考 正長の土一揆に関する史料

## &lt; 史料 &gt;

正長元年九月 日、一天下の土民蜂起す。徳政と号し、酒屋、土倉、寺院等を破却せしめ、雑物等恣にこれを取り、借錢等悉くこれを破る。官領これを成敗す。凡そ亡国の基、これに過ぐべからず。日本開白以来、土民蜂起はれ初めなり。 『大乘院日記目録』

## &lt; 通釈 &gt;

正長元年（1428 年）9 月、天下の土民（下級武士を含む農民）が蜂起した。徳政を宣言しながら酒屋、土倉、寺院などを壊し、質入れしていた物などを勝手に取り、借金などをことごとく踏み倒した。管領がこれに対処したが、だいたい国が亡びる原因としてこれ以上のものは無い。日本が始まって以来、土民の蜂起はこれが初めてである。

正長元年ヨリサキ者カンヘ四カンカウニヲキメアルヘカラス

（正長元年より先は神戸四箇郷に負い目あるべからず）

『柳生の徳政碑文』

正長元年より以前の神戸 4 力郷で負債は一切無くなった。

1428 年、6 代将軍が足利義教（任 1429-41）に決まり、初めに近江の馬借が「代始めの徳政」を求めて蜂起した。馬借は機動力があり、奈良や京都の情報をすぐ獲得できたため、しばしば一揆の先駆けとなることがあった。一揆はたちまち畿内やその周辺に拡大したため、幕府による徳政令こそはなかったが、各地で柳生の徳政碑文に記されているような私徳政が宣言された。この一揆の影響は他の地域にも波及し、1429 年には播磨国の土民が「旧冬の京辺の如く蜂起」し播磨の土一揆を起こしたほか、1441 年の嘉吉の変（守護・赤松満祐（1373-1441）が 6 代将軍足利義教を暗殺した事件）直後には、再び近江の馬借を中心に「代始めの徳政」を求める嘉吉の徳政一揆が起こった。

（制作：帆玉光輝，下谷佳楠）

# 2014年度 センター試験 本試験 日本史 B

## 第4問 江戸時代の民衆と対外関係

出題範囲	近世の社会・文化史
難易度	★★★★☆☆
所要時間	8分
傾向と対策	2014年度の第4問は、文化史、政治史がほぼ出題されなかった。その代わりに受験生の学習が手薄となりやすい産業史や交通制度が出題され、受験生によってはかなり解きにくい問題であったかもしれない。しかし、問われている内容自体は教科書太字レベルのものが多く、難易度は高くない。やはり教科書をまんべんなく読み、整理した上で暗記しておくこと、さらに社会・文化・政治史を相互に関連付けながら覚えておくことが重要である。また、問6のような日本地図を用いた問題はセンター試験では頻出であるので、図表等を用いて対策したい。

### A

問1 **19** 正解は②

難易度 ★☆☆☆☆

#### 解説

ア **島原**が入る。「天の四郎が天草一揆ありてより」という部分から、この文章では**島原の乱**について書かれていることがわかる。島原の乱は**天草四郎時貞** (1623?-38) に率いられたキリシタン農民による反乱であり、**島原・天草一揆**とも呼ばれる。

イ **絵踏**が入る。史料4～6行目の「役人、**切支丹**の本尊の絵像を持廻り、家ごとに男女老少に限らず皆々切支丹宗にあらざるよしを言わせて、証拠の為に絵像を踏ます事なり」という部分から、**絵踏**について書かれていることがわかる。

以上より、正解は②である。

問2 **20** 正解は②

難易度 ★★★★★

#### 解説

① 誤 **九十九里浜**では**地曳網**を用いた**鰯漁**、土佐では釣漁による**鰹漁**や**鰯**を用いた**捕鯨**が盛んに行われた。九十九里浜でとれた鰯や蝦夷地でとれた**鱈**は、**干鰯**や**粕**などに加工され、**金肥**として流通した。

② 正 **入浜式塩田**とは、潮の干満を利用して塩分の濃度を高める塩田のことで、室町後期に伊勢地方などで始まり、近世には瀬戸内地方で発達した。

③ 誤 草や葉を田畑に敷きこんだ**刈敷**や草木を焼いた**草木灰**は、**農民が自給できた肥料**であり、近世以前から普及していた。一方、**干鰯**や**粕**、**油粕**などは金銭を支払って手に入れていた。このような肥料のことを**金**

肥といい、17 世紀後半から普及していった。

- ④ 誤 灘の特産品は伏見と同じ酒で、阿波は藍玉である。また、醤油の名産地は関東の野田や銚子、紅花は出羽村上（最上）地方である。

以上より、正解は②である。

問 3 21 正解は①

難易度 ★★★☆☆

解説

- I 天草版は南蛮文化（16 世紀後半、安土桃山時代）の一つである。宣教師によるキリスト教布教の一環として盛んに出版された。
- II 浮世草子とは、現実の世相や風俗を背景にした小説のことで、元禄文化（17 世紀末～18 世紀初め、江戸時代前期）の一つであり、好色物・武家物・町人物などのジャンルがある。井原西鶴（1642-93）が代表的な作家で好色物の『好色一代男』や町人物の『日本永代蔵』などが有名。
- III 喜多川歌麿は宝暦・天明期（18 世紀後半、江戸時代後期）の浮世絵作者で、美人画を得意とした。また、錦絵とは 18 世紀半ばに鈴木春信が完成させた代表的な浮世絵版画技法の一つである。

以上より、古い年代順から I（16 世紀後半・南蛮文化）→II（17 世紀末～18 世紀初め・元禄文化）→III（18 世紀後半・宝暦・天明期の文化）の組み合わせになる①が正解である。

B

問 4 22 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

- X 誤 幕府は、アイヌとの交易独占権を松前藩に認めており、松前藩とアイヌが交易を行っていた場所は商場（場所）と呼ばれていた。また、倭館とは室町時代以降、朝鮮が日本の使節の居留や貿易のため朝鮮沿岸に設けた場所の事である。対馬の宗氏を介し、日朝貿易が盛んに行われていたが、1510 年の三浦の乱以降、朝鮮との貿易はしばらく減少した。
- Y 誤 北前船は、蝦夷地や東北の物産を西廻り海運を用いて下関廻りで大坂へ運んだ。また、主に上方で作った酒を江戸へ輸送したのは樽廻船である。

以上より、正解は④である。

## ◆参考 鎖国下で開かれた4つの窓口

近年、研究者の間で「鎖国」という概念が大きく揺らいでいる。徳川幕府が展開した対外政策は、従来の「鎖国」という言葉から想像されるような国を固く「鎖」すものではなかったのではないかという言説が強くなってきているのだ。その中で重要な観点といえるのが、幕府が開いていた4つの外交窓口の存在である。4つの窓口とは以下の4カ所を指す。

### 1：長崎－オランダ・清

- ・幕府が貿易を独占した。
- ・オランダ人は出島に、清国人は唐人屋敷に居留が限定された。
- ・オランダ船が来航するたびにオランダ商館長は幕府にオランダ風説書を提出した。

### 2：対馬－朝鮮

- ・1609年、対馬藩主の宋氏が朝鮮との間に己酉約条を結び、これが近世日朝関係の基礎となった。主に釜山の倭館で貿易が行われた。
- ・宋氏は幕府によって対朝鮮貿易の独占を認められており、宋氏は貿易利潤を家臣に分配することで主従関係を維持させた。
- ・江戸時代に12回、朝鮮から使節が訪れており、そのうち4回目からは（朝鮮）通信使と呼ばれた。

### 3：薩摩－琉球

- ・琉球王国は1609年、薩摩藩主の島津家久（1576-1638）によって征服され、薩摩の支配下におかれた。
- ・薩摩藩は、検地・刀狩を行って農村支配を確立させたうえで通商交易権を掌握したが、独立した王国として中国との朝貢貿易を継続させた。
- ・琉球国王の代替わりごとにその就任を感謝する謝恩使を、徳川将軍の代替わりごとにその就任を祝賀する慶賀使を幕府へ派遣した。

### 4：松前－蝦夷地

- ・蠣崎氏は近世に松前氏と改称し、1604年に徳川家康（1543-1616）からアイヌとの交易独占権を獲得した。
- ・アイヌとの交易地域は商場（場所）と呼ばれ、松前氏はこれを知行として与えることで家臣との主従関係を維持した（商場知行制）。
- ・1669年、アイヌはシャクシャインの戦いを起こしたが敗北し、以後全面的に松前藩に服従することとなった。
- ・江戸後期になると、松前藩の家臣は商場を和商人に請け負わせてその運上金を主な収入とするようになった。これを場所請負制という。

問 5 23 正解は③

難易度 ★★★☆☆

## 解説

- X b 該当する人物は新井白石 (1657-1725) である。新井白石は 6 代将軍家宣 (任 1709-12), 7 代将軍家継 (任 1713-16) に仕えた朱子学者である。屋久島で捕らえられたイタリア人宣教師シドッチ (1668-1714) を尋問して得た知識について, 世界地理は『采覧異言』として, 海外事情・キリスト教教義は『西洋紀聞』として批判を加えながらまとめた。白石の著作には, ほかにも歴史を段階によって区分し, 政権の推移を表した『読史余論』や, 日本神話の解説書である『古史通』, 白石の自叙伝である『折たく柴の記』がある。また, 徳川吉宗 (1716-45) は 8 代将軍で享保の改革を行った人物である。改革の一環として漢訳洋書の輸入制限を緩和したほか, 青木昆陽 (1698-1769), 野呂元丈 (1694-1761) に蘭学の学習を命じている。
- Y c 『赤蝦夷風説考』は, 1783 年に仙台藩の藩医である工藤平助 (1734-1800) が田沼意次 (1719-88) に献上した書物である。この書物では, 蝦夷地の状況を報告しつつ, その開発が主張されている。この献策の影響もあり, 田沼は 1786 年, 最上徳内 (1754-1836) に千島探査を命じた。『ハルマ和解』は, 稲村三伯 (1758-1811) らによって 1796 年に刊行された日本最初の蘭日辞典である。
- 以上より, X - b と Y - c の組み合わせになる③が正解である。

問 6 24 正解は①

難易度 ★★★☆☆

## 解説

- X a 日米和親条約によって開港されたのは下田と a の箱館である。b は日米修好通商条約で開港が決まった新潟である。日米修好通商条約では, ほかに神奈川・長崎・兵庫の開港が定められた。
- Y c モリソン号は, 日本人漂流民の送還と貿易交渉のために 1837 年非武装で浦賀 (c) に到着したが, 異国船打払令によって砲撃を受け退去した。これに対して翌年, 尚歯会に属する渡辺華山 (1793-1841) と高野長英 (1804-50) がそれぞれ『慎機論』と『戊戌夢物語』を著し, 幕府の対外政策を批判したため, 幕府によって弾圧された (蛮社の獄)。また, d は 1808 年, 英軍艦フェートン号がオランダ船を捕獲するために進入した長崎を指す。
- 以上より, X - a と Y - c の組み合わせになる①が正解である。

(制作：帆玉光輝, 釈迦戸雅史)

# 2014 年度 センター試験 本試験 日本史 B

## 第 5 問 明治期の租税制度

出題範囲	近代の社会・外交史
難易度	★★☆☆☆
所要時間	6分
傾向と対策	2014年度の第5問は、明治期の租税制度の変遷をベースにして、近世の税制度や対外関係の基本的な理解ができていのかどうかを問う問題であった。明治新政府の政策、諸外国との条約改正の流れは頻出する項目である。これらの内容は、センター試験において細かな部分まで問われるので、条約改正に至るまでの内容と結果はしっかりと整理して覚えておくことが重要である。また、明治新政府の中心人物、および彼らが行った政策と、その影響はおさえておきたい。

問1 **25** 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

### 解説

ア **地券**が入る。明治政府が従来の年貢負担者に地券を発行し、土地所有者（＝納税者）を明確にしたことで、封建的領有制は解体した。これに基づき、1873年には**地租改正条例**が交付される。**太政官札**は、1868年に明治政府が初めて発行した不換紙幣である。

イ **松方正義**（1835-1924）が入る。1881年に起きた**明治十四年の政変**でそれまで財政を牽引してきた**大隈重信**が下野すると、松方正義が大蔵卿に就任した。松方正義は、1880年代前半に**松方財政**と呼ばれる大規模デフレ政策を実施し、銀本位制の確立に成功した。**江藤新平**（1834-74）は、新政府の一員として司法の整備に尽力した佐賀出身の政治家である。江藤は1873年、**明治6年の政変**で下野したのち、**佐賀の乱**を理由に新政府によって処刑された。

以上より、正解は④である。

問2 **26** 正解は④

難易度 ★★★★★

### 解説

X **b** 1886年に紀伊半島沖で貨物船ノルマントン号が難破した。この際、船長を含む英人乗組員は全員救出されたものの、日本人船客は救出されず全員溺死した。しかしその後の審判で、英人領事によって出された判決は船長に禁錮3カ月を科すのみという軽いものだったため、日本国内では不平等条約に対する反感が強まった（ノルマントン号事件）。当時外務大臣だった**井上馨**（1835-1915）による条約改正交渉は、この事件と井上の極端な欧化主義政策に対する反感によって頓挫した。**伊藤博文**（1841-1909）には外務大臣の経験が無い。



Y d 日英通商航海条約は 1894 年、<sup>むつむねみつ</sup>陸奥宗光（1844-97）が外務大臣を務めていた時期に調印された。この条約は領事裁判権の撤廃や、関税自主権が一部日本に認められるなどの内容を含み、不平等条約の改正に日本が初めて成功した事例となっている。この背景には、ロシアの極東進出を恐れたイギリスが、進出を阻止するため日本を利用しようとしたことがある。一方、<sup>てらしまむねのり</sup>寺島宗則（1832-93）は 1870 年代後半、樺太・千島交換条約の締結などにあたった外務卿である。寺島も関税自主権の回復を目指した条約改正交渉を行ったが、実現しなかった。

以上より、X - b と Y - d の組み合わせになる④が正解である。

問 3 27 正解は①

難易度 ★★★☆☆

**解説**

- a 正 1877 年、前年の大規模な地租改正反対一揆を受けて、地租が地価の 3% から 2.5% まで引き下げられた。
- b 誤 地租改正では、税収の安定を図って課税基準が収穫量から地価となった。
- c 正 入会地は所有者が明確でなかったため、地券は発行されず官有地に編入された。このことは農民から大きな反発を受ける一因となった。
- d 誤 物納（米納）では保存が難しく、ならびに米価は不安定なため金納に変更された。

以上より、a と c の組み合わせになる①が正解である。

問 4 28 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

**解説**

- X 誤 租税収入に占める酒税の比率が初めて地租を超えたのは、表より 1900 年度だとわかる。日露戦争は 1904 年に勃発したので、この記述は誤りである。
- Y 誤 租税収入に占める関税の比率が初めて 10% を超えたのは、表より 1900 年度のことだとわかる。関税自主権の完全回復は<sup>じゅたろう</sup>小村寿太郎（1855-1911）によって 1911 年になされたので、この記述は誤りである。

以上より、X - 誤、Y - 誤になる組み合わせの④が正解である。

制作：（帆玉光輝，下谷佳楠）

# 2014 年度 センター試験 本試験 日本史 B

## 第 6 問 手塚治虫と日本の近現代

出題範囲	第一次，第二次世界大戦前後の政治史，経済史
難易度	★★★★☆
所要時間	10 分
傾向と対策	2014 年度の第 6 問は，手塚治虫 <sup>てづかおさむ</sup> にまつわる問題であった。センター試験の第 6 問はこのように特定の人物にまつわる出題が多い。このような問題はその人物に関する内容から派生して，あらゆる分野から問題が出題される可能性がある。特に C で出題されている現代史は多くの受験生が苦手とするが，センター試験では必ず 2～3 問程度が現代史から出題されている。対策を怠れば 10 点以上失いかねないので，必ず学習を進めておこう。

### A

問 1 **29** 正解は①

難易度 ★★★★★

#### 解説

- X 正 第一次世界大戦後，工業化と都市化が進展した。大都市では女性の社会進出が進み，電話交換手やバス車掌，タイピストなどを務める職業婦人が増加した。このことは女性の経済的地位の向上を促した。
- Y 正 1930 年に昭和恐慌が起こると，生糸・繭価，米価が下落し，農村は大きな打撃を受けた。また，1931 年には東北地方を中心に大飢饉が起こり，貧窮した農村では娘の身売りや欠食児童が続出し社会問題となった。
- 以上より，X－正，Y－正の組み合わせになる①が正解である。

問 2 **30** 正解は①

難易度 ★★★★★

#### 解説

- a 正 当時（1928 年）の内閣とは，立憲政友会の田中義一<sup>ぎいち</sup>内閣（1927-29）である。普通選挙法施行後，最初の総選挙で無産政党から 8 名が当選し，日本共産党が公然と活動し始めた。これに衝撃を受けた田中内閣は，同年に治安維持法を改正して最高刑を死刑としたほか，各道府県の警察にも特高（特別高等警察）を設置した。また，三・一五事件や四・一六事件によって共産党員の大検挙を行った。
- b 誤 田中内閣が全国に設置したのは特高である。警察予備隊は，1950 年に朝鮮戦争勃発に伴って創設された戦後初の武装部隊である。
- c 正 2 の解説にもあるとおり，1928 年の総選挙で無産政党が 8 議席獲得した。
- d 誤 1925 年の選挙法改正では，25 歳以上の男子に選挙権が与えられた。参考として，20 歳以上の男女に

選挙権が付与されるのは 1945 年のことである。

以上より、a と c の組み合わせになる①が正解である。

問3 31 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

- ① 誤 モラトリアムとは、債務の不履行による金融上の混乱を防止するため、政府が法令により銀行預金などのすべての債務支払いを一定期間猶予する措置のことである。金融恐慌は 1927 年に始まり、同年に田中内閣がモラトリアムを実施したことで収束した。
- ② 正 鈴木商店は、大戦中に台湾銀行からの融資に支えられて急成長したが、戦後不況によって経営が悪化し、金融恐慌で破綻した。当時の若槻礼次郎内閣（1926-27）は、巨額の不良債権を抱えた台湾銀行を緊急勅令によって救済しようとしたが、枢密院の協力を得られず総辞職した。
- ③ 誤 1927 年、片岡直温蔵相（1859-1934）は、実際のところ渡辺銀行は破綻していなかったにもかかわらず、「現に今日正午頃に於て渡辺銀行がとうとう破綻を致しました」という発言をした。これをきっかけに、東京渡辺銀行を筆頭として取り付け騒ぎが起こり、金融恐慌が始まった。
- ④ 誤 浜口雄幸内閣（1929-31）が、1930 年に旧平価による金解禁を断行したことで国内経済に強いデフレーションがもたらされた。さらに、1929 年に起きた世界恐慌の影響も重なり、昭和恐慌とよばれる深刻な不況が到来した。

以上より、正解は②である。

B

問4 32 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

- I 1943 年 11 月、F. ローズベルト（米、1882-1945）、チャーチル（英、1874-1965）、蒋介石（中、1887-1975）によりカイロ会談が開かれた。ここで対日戦略と戦後処理に関して話し合われ、その内容はカイロ宣言として明示された。
- II 1942 年 6 月に起こったミッドウェー海戦で日本海軍は大敗北を喫した。この戦いを機に攻勢が逆転し、アメリカによる日本への攻撃が本格化した。
- III 1945 年 8 月 6 日に広島、9 日に長崎と相次いで原子爆弾が投下された。

以上より、古い順から II（1942 年）→ I（1943 年）→ III（1945 年）になる組み合わせの③が正解である。

問 5 33 正解は③

難易度 ★★★★★

## 解説

- ① 正 <sup>あいかわよしすけ</sup>鮎川義介が結成した日産コンツェルンは、満鉄に変わって満州の重化学工業を独占支配した。一方、野口<sup>したがう</sup>遵は日本窒素肥料会社を基盤として、朝鮮北部に水力発電所や化学コンビナートを建設して日窒コンツェルンを形成した。
- ② 正 企画院は、日中戦争下の 1937 年に設置され、戦時統制経済の計画立案などを担い、物資動員において中心的な役割を果たした。1930 年代半ばより、陸海軍対立や経済界からの強い反発のために、1943 年、新設の軍需省に吸収された。
- ③ 誤 労働組合は総力戦への協力のために、警察の指導下で工場・職場ごとに結成された労働組織産業報国会<sup>じょじょ</sup>に徐々に吸収されていった。1940 年にはこれらの全国連合組織として大日本産業報国会が結成された。日本労働組合総評議会（総評）は 1950 年、GHQ の後押しによって結成された労働組合の全国組織である。
- ④ 正 日本は、1940 年 6 月にフランス軍がドイツ軍に降伏したことを受けて 9 月に北部仏印（仏領インドシナ）へ進駐、1941 年 7 月には南部仏印へ進駐した。アメリカはこれに対して石油の対日輸出禁止を決定するなど日本への経済制裁を強めた。
- 以上より、正解は③である。

## C

問 6 34 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

## 解説

- ア 人間宣言が入る。1946 年 1 月 1 日、昭和天皇（在位 1926-89）は「天皇を以て<sup>あきつみかみ</sup>現御神とし、且日本国民を以て他の民族に優越せる民族にして…架空なる観念に基く」という詔書を発表し、自らの神格化と日本民族の優越性を否定した。
- イ 公職追放が入る。GHQ は、1946 年 1 月に戦争協力者・国家主義者を公職から追放した。政・財・言論界まで徹底して行われ、1948 年までに 20 万人以上が追放された。<sup>ほとやま</sup>鳩山一郎（1883-1959）や<sup>のぶすけ</sup>岸信介（1896-1987）も追放者の一人である。また、1950 年の朝鮮戦争の勃発直前からは、元軍国主義者の公職追放が徐々に解除されるのと並行して、GHQ はレッド＝パージと呼ばれる共産主義者の公職追放を行った。
- 以上より、正解は②である。

問 7 35 正解は④

難易度 ★★★★★

## 解説

- ① 正 日本は、1963 年に GATT11 条国（貿易の自由化のため国際収支を理由とした輸入制限ができない国）

へ、1964 年には **IMF8 条国**（為替の自由化のため国際収支を理由とした為替管理ができない国）へ移行し、為替と資本の自由化を実現した。

- ② 正 日本は**高度経済成長**によって、**1968**年に国民総生産（GNP）が、資本主義諸国の中でアメリカに次ぐ第2位となった。
- ③ 正 1950年代半ばよりエネルギー源が**石炭から石油へ転換した（エネルギー革命）**。これに伴い全国の炭鉱では閉山が相次ぎ、**1960**年には三井鉱山三池炭鉱で炭鉱労働者の大量解雇に反対する**三池争議**が起きた。
- ④ 誤 1950年代には、生活様式の転換などの影響で、家電製品が急速に普及した。その中でも**白黒テレビ・電気洗濯機・電気冷蔵庫**は「**三種の神器**」と称された。また、1960年代後半からは自動車（Car）・カラーテレビ（ColorTV）・クーラー（Cooler）の「**新三種の神器**」、通称「**3C**」も普及率が急上昇した。
- 以上より、正解は④である。

問 8 36 正解は③

難易度 ★★★★★☆

**解説**

- ① 誤 **日本学術会議**は、1949年に設立された選挙により選ばれた諸分野の科学者を会員とする機関である。一方、**ヴェトナム戦争**の期間は**1961年から73年まで**であるので、明らかに正しくない。ヴェトナム戦争期には、戦争に反対する市民らによる運動が盛んに行われた。
- ② 誤 公害など、高度経済成長による社会問題が深刻化する中で、1967年に東京都知事となった**美濃部 亮吉**（美濃部達吉の長男、1904-84）を皮切りとして、1970年代初めに大都市圏で次々と**革新首長**が誕生した。革新自治体は公害対策などの**福祉政策に力を注いだ**が、70年代後半には財政難により退潮していった。
- ③ 正 1954年、アメリカの水爆実験により**第五福竜丸**が被ばくしたことを契機に**原水爆禁止運動**が急速に拡大し、55年には広島で第1回原水爆禁止世界大会が開かれた。
- ④ 誤 **水俣病・新潟水俣病・四日市ぜんそく・イタイイタイ病**の4大公害訴訟は、1973年までに**いずれも被害者側（原告側）が勝訴**した。
- 以上より、正解は③である。

（制作：帆玉光輝，瀧拓也）